

平成 28 年度 「中学生チャレンジテスト」における 港中学校 3 年の結果の分析について

大阪府による「中学生チャレンジテスト」について、平成 28 年 6 月 23 日（木）に、第 3 学年を対象として、教科に関する調査と生徒アンケートを実施しました。

大阪府教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

- ① 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒の課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ② 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のための PDCA サイクルを確立する。
- ③ 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- ④ 生徒一人ひとりが、自らの学習到達度を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。
- ⑤ 大阪府教育委員会は、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。

2 調査の対象

- ・ 大阪府内の市町村立中学校、特別支援学校及び府立支援学校中等部の第 3 学年
- ・ 港中学校では、第 3 学年 98 名

3 調査内容

- ① 国語、社会、数学、理科及び英語
- ② 生徒アンケート

平成28年度「チャレンジテスト」検証シート

学校名 **大阪市立 港 中学校**

【 第 3 学 年 】

生徒数(人) **98**

平均点 (点)

平均無解答率 (%)

	国語	社会	数学	理科	英語
学校	50.9	46.6	38.7	30.9	49.9
大阪市	58.8	52.7	47.1	37.6	56.8
大阪府	59.6	52.2	48.1	38.6	57.9

	国語	社会	数学	理科	英語
学校	13.3	5.7	10.6	10.0	5.3
大阪市	10.7	6.0	8.6	9.6	5.5
大阪府	10.1	6.4	8.3	9.7	5.4

結果の概要

全体に府平均より得点にして6～10点低くなっている。2年生の時のチャレンジテストの結果からみるとその差は縮まっており、無回答率も少なくなっている。特に弱いのは、国語では書くことに関する問題、数学では数量や図形に案ずる知識理解、英語ではや外国語の表現・表記などとなっている。社会は歴史的分野は大きな差はないが、地理的分野の判断・表現が弱く、特に資料の読み取りなどが十分でない。理科は科学的思考は弱いものの、観察実験の技能は府平均より高くなっている。全体的にどの教科においても記述式回答の点数が他に比べて低い傾向にある。

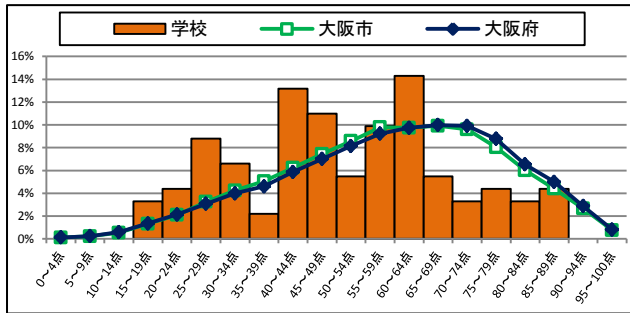
成果と今後取り組むべき課題

現在の3年生が2年の時のチャレンジテストと比較するとどの教科も無回答率が低くなっており、問題に取り組む姿勢は向上したといえる。授業規律は確立し真面目に学習する態度はできつつあるので、粘り強く考え、答えにたどり着く過程の着実さを定着させていく。表・グラフ・資料などを基にして、データの読み取り・まとめ・思考・表現を一貫した流れとして取り組む必要がある。

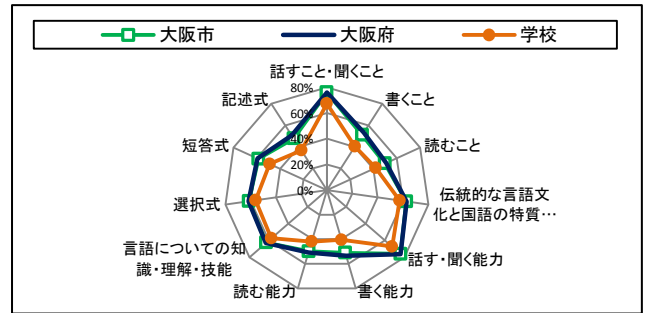
【第3学年 各教科の得点分布と領域・観点・問題形式別平均得点の分布】

【国語】

【得点分布】

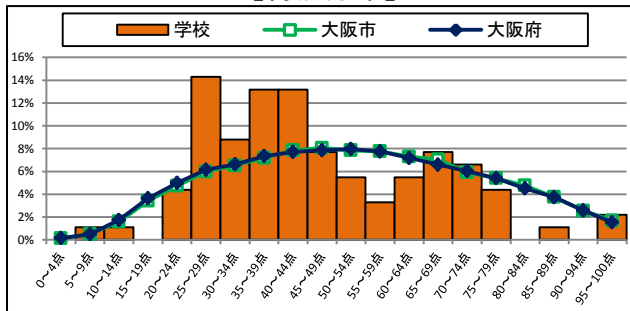


【領域・観点・問題別の分布】

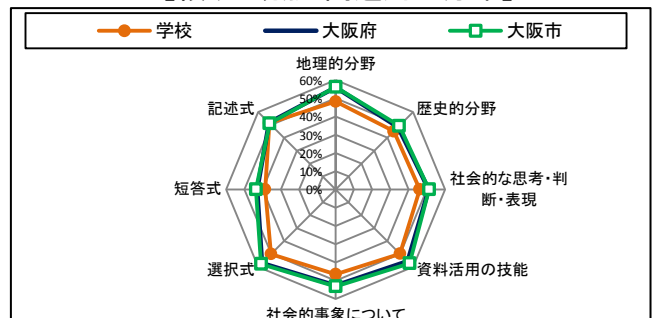


【社会】

【得点分布】

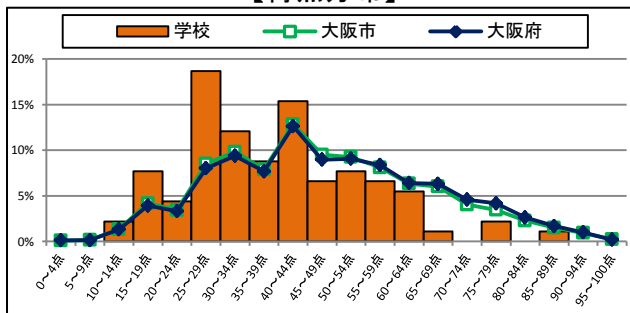


【領域・観点・問題別の分布】

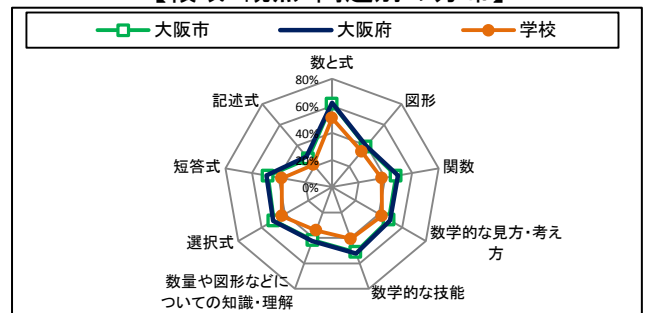


【数学】

【得点分布】

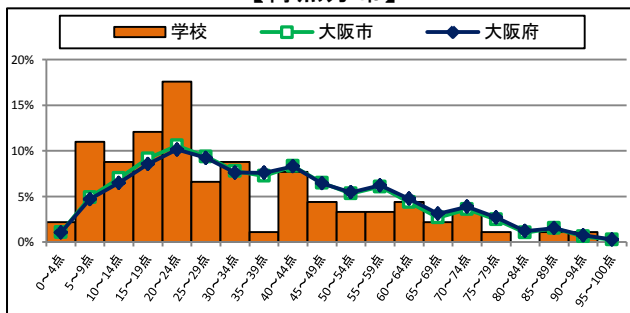


【領域・観点・問題別の分布】

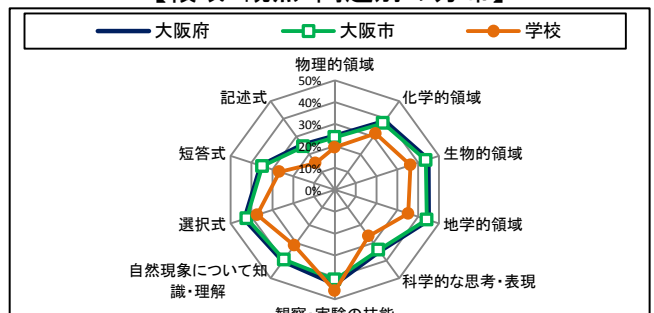


【理科】

【得点分布】

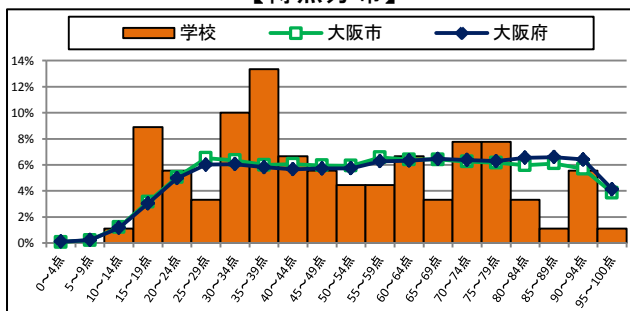


【領域・観点・問題別の分布】



【英語】

【得点分布】



【領域・観点・問題別の分布】

